

## 10月16日 午後 小水力発電事例報告

午後には、全国から約500名の方が参加し、うぐいすホールにおいて開会式が行われました。

その後、山梨県内で取り組まれている4つの先進的な事例について、報告がありました。

1事例につき、15分という短い時間ではありましたが、地域の特徴を生かした事例の紹介や、現状の課題、今後の展開についての報告がありました。

### ○報告団体

- ・山梨県北杜市
- ・山梨県南アルプス市
- ・山梨県企業局
- ・山梨県都留市



# パネルディスカッション ～流れる水で地域が輝く～

事例報告終了後、「流れる水で地域が輝く」をテーマとし、パネルディスカッションが開催されました。

コーディネーターは、都留市出身のNHKアナウンサー、国井雅比古氏が務め、パネルには、広島県のイームル工業株式会社顧問である、沖武宏氏、栃木県那須野ヶ原土地改良区連合事務局長の星野恵美子氏、小林義光都留市長、茨城大学農学部教授の小林久氏の4名を迎えました。

各パネリストから、それぞれの取り組みについて発表があった後、小水力発電の今後の可能性について、議論がかわされました。  
(以下、敬称略)

### ■小水力発電の課題

電気料金制度を改正する必要がある。固定買取制度が進んでいるドイツの事例をもとに検討すべき(沖・小林久)。

■小水力発電の事業化へ向けて  
まだコストの高い小水力発電所の建設費を削減するための工夫や、法に基づく手続きの簡素化が必要(星野)。

### ■意義

■まちづくりにおける小水力発電の意義  
水資源の価値に市民が気づくことがまず第一段階として必要であり、そこから環境観光の可能性が広がる(小林義)。

■水利用の権利を市民に取り戻すために  
水が身近に感じられるような水の利用の仕方に工夫が大切。収入などの効果が分かりやすい小水力発電には、その可能性がある(小林久)。

山川を守ってきた先人たちの歴史、地域の水の歴史を知ることが大切。また、水は「流域全体の水」という意識も欠かせない(星野)。

■森林の荒廃  
都留市では登山客が増加している。資源としての山の使い方を検討中(小林義)。

昭和20年代にくらべ現在は発電量が低い。これは、涵養林(かんようりん)などの森林が荒廃していることによる。しかし、林業の衰退とあいまって、対応策がなかなか見つからない(沖)。

「千年の森を育てるみんなの研究会」を土地改良区内に設け自主的に活動している(星野)。  
補助金などの制度づくりが大切。全ての文明は森にあり、水が健全にめぐるように、森林を確実に整備していく必要がある。また切り捨て間伐で生じた木材の活用法を見出すことも大切(小林久)。

### ■地域雇用問題

林業に力を入れ、産業として再生することで、雇用問題解決に結びつけることも考えられる(小林義)。



コーディネーター  
国井雅比古氏  
NHKアナウンサー  
都留市出身



パネラー  
沖 武宏氏  
イームル工業株式会社  
顧問



パネラー  
星野恵美子氏  
那須野ヶ原土地改良区  
連合事務局長



パネラー  
小林義光氏  
都留市長



パネラー  
小林 久氏  
茨城大学農学部  
教授